

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-4
高等教育の充実

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 総務部総務課長 鎌谷正文 電話番号 0852-22-5011

事務事業の名称	島根県立大学学部等設置事業	
目的	(1) 対象	公立大学法人島根県立大学
	(2) 意図	18歳人口の減少などに伴う、県内高校生の4年制大学への進学志向、栄養・保育など資格職に求められるニーズの高度化などに対応するため、松江キャンパスに4年制の新学部を設置するとともに、高校生等の短大進学ニーズを踏まえ、短大の一部を存置する。
事業概要	松江キャンパスの短期大学部3学科（健康栄養学科・保育学科・総合文化学科）全てを4年制化し、健康栄養学科を出雲キャンパスに移転する。なお短期大学部は、定員を見直した上で2学科（保育学科・総合文化学科）を継続する。このことに伴う施設整備、移転、備品等に伴う費用を補助する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 公立大学法人島根県立大学業務実績に対して公立大学法人評価委員会が行う年度評価の評定平均値	目標値	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	%
		取組目標値						
	式・定義 各年度の評定値（1～5）の合計／年度計画項目数	実績値	4.0	3.9	3.9			
		達成率	114.3	111.5	111.5	-	-	%
2	指標名	目標値						%
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	2,770,005	629,837
うち一般財源 (千円)	486,905	96,837

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

(1) 他大学と差別化を図り選ばれる大学となるための魅力ある教育内容の構築 ①地元の実践者等を講師とする独自科目の開設（しまね文化論） ②地域をフィールドとした実践的教育の強化（しまねフィールド科目）や英語を中心とした語学学習（コミュニケーション力）の強化
(2) 必要な施設整備等の実施 ①健康栄養学科の出雲キャンパス移転に伴う新棟建設工事及び既存棟改修工事、備品整備等 ②松江キャンパス共用スペース拡大のための、新棟の実施設計及び建設工事 ③松江キャンパス新学部設置に伴う、既存棟の教育上必要な改修及び老朽化・バリアフリー対応の改修実施設計・工事

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○以下のとおり、新学部に関する設置認可及び施設整備工事を実施した。 【松江キャンパス】 ・人間文化学部設置認可（文科省） ・人間文化学部教職課程認定（文科省） ・人間文化学部保育士養成施設指定施設認可（島根県） ・人間文化学部設置による2号館改修 【出雲キャンパス】 ・管理栄養士養成施設指定施設認可（厚労省） ・健康栄養学科移転による、新棟建設及び既存棟改修、備品整備等 ○オープンキャンパスや高校訪問等を通じたPR等により、高い志願倍率及び県内入学率を達成した。 【松江キャンパス】 ・保育教育学科（志願倍率3.25、県内入学率58.1%） ・地域文化学科（志願倍率3.07、県内入学率62.2%） 【出雲キャンパス】 ・健康栄養学科（志願倍率3.35、県内入学率52.4%）
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」 ・大学入試においては、前年志願倍率が高い場合や、新学部開設2年目などは志願倍率が減少する傾向にある。
②困っている状況が発生している「原因」 ・県内高校生に対して、大学での学び、取得可能な資格等、大学の魅力を十分に伝えることができるか。
③原因を解消するための「課題」 他大学との差別化、魅力の向上や広報の見直しが必要

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・高い志願倍率の維持及び県内入学率向上のため、平成30年度入試の状況を詳細に分析し志願者の動向把握に努めるとともに、大学の学びの特色や取得可能資格について、オープンキャンパスや高校訪問、新聞・テレビ広告等といった様々な機会を通じ、県内高校生、高校進路担当者、保護者へ広報する。
--